

臨床リハビリテーション学(がん)

《担当者名》本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

日本における死因別死亡数の第一位は悪性新生物であり、日本人の2人に1人はがんに罹患するとされており、リハビリテーションにおいても重要な対象疾患である。したがって、がんに必要な医学的知識や作業療法に必要な治療およびサポーターケアを理解し、チーム医療における作業療法士の役割とリスク管理などのがんリハビリテーションにおける基礎的知識を習得する。

【学修目標】

一般目標：がんによる医学的問題やがん治療による様々な合併症を理解し、がん患者のADLやQOLの維持・向上させるために、作業療法の治療およびサポーターケアに関する基礎知識を学ぶ。また、世代や病態に応じたチーム医療における作業療法士の役割とリスク管理を理解する。

行動目標：

1. 手術・化学療法・放射線療法などのがんの治療と各疾患のstage分類を説明できる。
2. トータルペインの概念を説明できる。
3. がんに関連する制度とサービスを説明できる。
4. グリーフケアにおける概要を説明できる。
5. 治療期におけるがんリハビリテーションの役割を説明できる。
6. 進行期におけるがんリハビリテーションの役割を説明できる。
7. 終末期におけるがんリハビリテーションの役割を説明できる。
8. がんリハビリテーションにおける多職種の役割を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	がんとは何か	がんの根治が極めて困難な理由を、人類の進化の過程を含めた生物学的な人間の機能の観点から学ぶ。	本家寿洋
2	がんの基礎的理解とがんサバイバースhip	がん治療の原則やstage分類を学び、家族や医療関係者とともにがんを乗り越えていくがんサバイバースhipの概念を理解する。	本家寿洋
3	がん治療学	がんの治療である手術・化学療法・放射線療法について学ぶ。	本家寿洋
4	がんの診断と検査データの見方	画像によるがんの診断と検査データの見方を学ぶ。	本家寿洋
5	トータルペイン(1)	トータルペインの概念である身体的苦痛と精神的苦痛を理解し、それらの苦痛に対する治療とケアを学ぶ。	本家寿洋
6	トータルペイン(2)	トータルペインの概念である社会的苦痛とスピリチュアルな苦痛を理解し、それらの苦痛に対する治療とケアを学ぶ。	本家寿洋
7	がんに関連する制度とサービス	がんに関連する制度とサービスについて学ぶ。	本家寿洋
8	家族ケア・グリーフケア	がん患者と生活する家族の支援方法と、死別での家族の悲しみを支援するグリーフケアについて学ぶ。	本家寿洋
9	早期におけるがんリハビリテーションの役割	がん診断後の早期における精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛に対する作業療法の役割を学び、この時期の新たな治療の開発を模索する。	本家寿洋
10	治療期におけるがんリハビリテーションの役割(1)	手術・化学療法・放射線治療期における作業療法の役割(就労・就学を含む)を事例で理解し、事例研究の方法を学ぶ。	本家寿洋
11	治療期におけるがんリハビリテーションの役割(2)	手術・化学療法・放射線治療期における作業療法の役割(就労・就学を含む)を学び、RCTの先行研究から新たな治療の開発を模索する。	本家寿洋
12	進行期におけるがんリハビリテーションの役割	がん再発後の作業療法の役割(就労・就学・在宅支援を含む)を学び、事例研究およびRCTの先行研究から新たな治療の開発を模索する。	本家寿洋
13	終末期におけるがんリハビリテーシ	がんの終末期における作業療法の役割(在宅復帰・在	本家寿洋

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	ヨンの役割	在宅支援を含む)を学び、事例研究よりこの時期における新たな治療開発を模索する。	
14	世代に応じたリハビリテーションの役割	思春期や成人期、育児期の親世代、高齢者におけるがん作業療法の役割を学ぶ。	本家寿洋
15	がん医療の多職種連携と今後の展望	がん医療における多職種の役割を理解し、がんリハビリテーションにおける作業療法の役割を学ぶ。さらに、がん作業療法の今後の展望を模索する。	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート（100％）で評価する。

【教科書】

教科書：使用しない

【参考書】

参考書：適宜紹介する

【学修の準備】

次回行う授業内容に関する関連文献を読み、事前に学習すること（80分）。

講義後与えられたレポートを提出すること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における臨床的課題に対し、医科学・心理学・社会福祉学などの学際的視点を取り入れながら科学的に分析・解決する能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における臨床経験および大学における教育・研究経験をもとに講義・指導する。